

令和7年度 学校評価書(共通) 後期

校名 宇和島市立宇和津小学校

1 自己評価書

教育目標	「ふるさとを愛し、夢や希望を持ち続け、未来を生き抜く児童」の育成						
基本方針	児童を教育活動の中心に据え、一人一人を生かす教育実践に努めるとともに、家庭・地域に愛され、信頼される学校づくりを目指す。						
本年度重点目標	1 確かな学力の定着と向上 2 学校全体で進める生徒指導・特別支援教育の充実 3 ふるさと学習の推進 4 学校運営協議会の充実・発展 5 教職員の資質・能力の向上と学校組織の活性化及び働きがい改革						
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価		
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析結果を基に、「身に付けさせたい力(学習の目標)」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施	A B	後期のみのみ	
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業モデル「N児方・考え方を変える」を視点に授業改善に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A		A
			ねらいを明確にした分かる授業を行った。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	A A	A	
			一人1台端末(iPad)やEILS(コンテンツバンク等)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B B A	B	
			③	家庭学習の充実	家庭との協働により、授業と連動させた家庭学習の充実に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B B A
	④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C C B	C	
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする児童生徒の育成に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A B A	A	
	(成果と課題) ○ねらいを明確にした授業実践を進め、自らの力で授業のまとめもできるようになってきた。 ○家庭学習に読書を取り入れるなど、学校と家庭の両方で本に親しむ時間を確保してことで、児童の読書意欲が高まってきた。						
	(改善策等) ◎学校では、小さな成功体験を増やすことで学習意欲を高める。 ◎根気強く家庭への啓発を続け、学習の習慣化を図る。						
	評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
	生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B A A	A
		②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	A
				不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	A
				いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速且つ適切な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	A
				③	関係機関との連携	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート
④		自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	A B	B	
			自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	B B		
(成果と課題) ○基本的な生活習慣に課題がある児童もいるが、定期的な呼び掛けやその場その場での指導で定着が進んでいる。 ○学校全体で挨拶をする場面を多く設定していることで、気持ちの良い挨拶ができ、地域への広がりも感じている。 ●自分の良い点や友人の良い点に気づくことができず、自己有用感がやや低い。							
(改善策等) ◎終わりの会や学級活動で、日常的に友達の良いところを探すことで、お互いの自己有用感を高める。 ◎日常的に整理整頓された環境を維持することで、基本的な生活習慣に対する意識を高める。							

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指し、校内で設定した業務改善施策を基に、組織的な働き方改革に努めた。	・教師アンケート	A	A
				・「出勤・退庁調査」の分析と活用	A	
	②	働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。(枠を移動しました。)	・教師アンケート	A	A
			休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	A	
	③	他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	A	A
(成果と課題) ○職員室の雰囲気も良く、困ったときには自然と誰にでも相談できる環境が継続している。 ○教職員の平均的な退庁時間が早く、帰りやすい雰囲気もある。 ●放課後体育や休日の練習にどうしても時間を割かれる教職員もいる。						
(改善策等) ◎校内でできる範囲の業務改善は行っているが、組織的に活動を制限するなど、宇和島市全体の取組が必要である。 ◎職員会議でのペーパーレス化を進め、更なる業務を効率化を模索する。						
評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。	・教師アンケート	A	A
			学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、熟議等の結果を基に、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	A	
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
	②	情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
	③	来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
(成果と課題) ○長年の学校運営協議会の活動から「校内の環境整備」について熟議を行い、学校運営協議会として市への陳情を行った。 ○ホームページや各通信で、積極的に教育活動に関する情報を発信することができた。						
(改善策等) ◎各通信を定期的に発行しているが、印刷から配付までの労力を削減するために、配信に変更したい。 ◎校内の環境整備に関して、今後は地域や家庭の協力もあおいでいきたい。						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満